



2017年～18年 鈴木みちお一般質問[抜粋]

2011年10月の初当選以来、毎回議会では一般質問に立ち、通算25回となりました。(代表質問1回含)



発行責任者：鈴木道生
ひたちなか市元町 11-4 レジデンス元町 302
連絡先：080-1113-4711

ひたちなか市議会議員 鈴木みちお 議会活動報告レポート

主要な公共施設 建て替え計画は



◀私立中央図書館

鈴木道生 中央図書館は30年度調査予算が計上された。本庁舎の計画および、広域組合に属する笹野消防署庁舎の計画について有無を含め、市は具体的に把握しているか伺う。

回答 本庁舎の耐用年数は60年から65年とされており、今後約15年程度は使用したいと考えている。笹野消防署庁舎については、管轄する消防本部において、消防司令システムなどの変新時期に併せ、現庁舎の改築などを検討している。

鈴木道生 公共施設の維持更新などに関わる年次ごとの財政負担はどのように推移するのか。また、市が画策した公共施設等総合管理計画に示されているところを根拠としてよいのか伺う。

回答 平成30年度から今後5ヵ月にかかる主要な公共施設の維持管理や更新、改修の経費については、合計で222億円を見込んでいる。個別具体的な毎年の財政負担や推移、見直しについては、公共施設等総合管理計画を根拠としているものではなく、向こう5年間の中期財政計画を策定し、毎年、見直ししながら、施策の展開や財政運営の目安としている。



日常の変化は加速していく

2018年度を迎え、2019年に開催される本市も会場となる茨城国体や、2020年の東京オリンピックもいよいよ間近となりました。平成もあと1年となりました。イベントや元号など、目に見える形で時代の変化を感じるこれからの数年となりそうです。一方で、私たちが住む社会もこれから下記の大きな変化を迎えることが予想されます。

日本社会の問題が顕著になる

- 【超高齢化】**
2025年問題(3人に1人が65歳以上、5人に1人は75歳以上、認知症患者約700万人)・人口減少・・・2025年、生産年齢人口2015年比約500万人減少
- 【人口集中】**
東京一極集中(転入超過減らず)
- 【住宅政策の失敗】**
2023年に空き家数1,394万戸へ(約半数は賃貸住宅)

技術の加速、できないことができるように

- 【次世代通信 5Gが海外2019年～】**
主流LTE比で100倍、日本2020年予定
- 【IOTが進み便利に】**
5G普及も大きい
- 【AIの進化で自動化と効率化】**
人から機械へ
- 【自動運転2020年サービス化】**
2025年本格導入(国の整備方針)

※参照 国立社会保障・人口問題研究所、野村総合研究所、総務省、内閣官房官民ITS構想、ドコモ等

今後、人口減少と高齢化と加速する技術革新が私たちの生活を変えていくと思われれます。本市でも、「今と同じ」発想では社会の変化について行けず、「新しい」可能性に気づかず、成長機会を逃してしまいます。また、現状では「正しい」と思っても、近い将来を見通して本当に「正しい」と言えるのか様々な立ち位置や角度から考える視座も必要です。変えてはいけない大切な考えは守りつつ、社会の進歩に適応して革新し、新しい価値を創造していく。そんな方向を目指して、歴史文化を尊重しつつ、違いを認め合い、分断ではなく懐を深くして政治課題に取り組んでいきたいと思ひます。

2018年度予算 合計965億2,181万円(対前年度比0.6%減)

一般会計 534億8,800万円 (対前年度比 1.5%減)
福祉、教育、道路整備などを進める基本的行政サービスを行うための会計

特別会計 430億3,381万円 (対前年度比 0.5%増)
国民健康保険や介護保険、後期高齢者医療など特定の目的を持つ、18事業会計



福祉や社会保障などの為の支出が増大しております。更に、公共施設の老朽化も進んで維持補修だけでなく、建て替え調査や解体の費用も今年度計上されております。行政の論理や作り手の目線ではない、利用者目線で支出の大きな事業について未来志向で意見していきます。

[主な歳出項目] (単位千円)

民生費	土木費	港灣費
社会保障費 10,803,550	土木管理費 218,473	244,530
児童福祉費 7,148,799	道路橋りょう費 1,846,532	都市計画費 4,884,053
生活保護費 1,729,873	河川費 446,459	住宅費 637,125
教育費		
教育総務費 837,663	義務教育学校費 585,670	社会教育費 1,348,375
小学校費 1,558,252	幼稚園費 974,620	保健体育費 1,158,901
中学校費 1,001,341		

ひたちなか市議会議員 **鈴木 道生**

1982年7月20日生 ひたちなか市共栄町出身
父、母ともに商売を営む家に生まれた。勝田保育園を経て
1995年 東石川小学校 卒業
1998年 大島中学校 卒業
2001年 勝田高等学校 卒業
高校3年の12月父が他界する。
2006年 日本大学法学部政治経済学科 卒業
大学1年よりNGOの学生ボランティアとして実際に現地(ミャンマー)に行き、世界観が大きく変わる。
2006年 株式会社ベルーナ入社 営業に従事。
2009年 楽天株式会社入社 ECコンサルタントに従事。
2011年 ひたちなか市議会議員
2013年 議会広報委員会委員長
2014年 ひたちなか市長選 大谷明事務局
2015年 2期目当選(10月)
2017年 議会運営委員会 副委員長

【家 族】妻・長女・次女
【趣 味】スポーツ・読書
【スポーツ】小学校時代には父の影響もあり、合気道を習う。中学校は野球部に所属、高校～大学以降野球・バドミントンを楽しむ。過去、勝田マラソン10km部門、フルマラソン部門完走。
【座右の銘】一視同仁
人は城、人は石垣、人は堀、情けは味方、仇は敵なり
【社会活動】勝田高校同窓会事務局、元町自治会、消防団第一分団、ひたちなか商工会議所青年部、ひたちなかまちづくり株式会社企画推進委員、ひたちなか祭り実行委員会
【連絡先】
住 所 〒312-0044 ひたちなか市元町 11-4 レジデンス元町 302
Tel.Fax 029-272-9028
E-mail suzuki.michio.nextjapan@gmail.com
facebook もやっています。

中央図書館の建替えについて



1 立地はどこが適切か？

- ・中心市街地の賑わいを生む施設。市街地活性化の観点。
- ・駅からの利便性。
- ・学校に近接した文教地区という恵まれた現在の立地。
- ・周辺を含めた土地利用の観点。

2 建替える際に、図書館の建物は、図書館単独施設でいいのか？

- ・財政が厳しい現在、新しい施設建設は、相当難しい為、図書館+αとして、複合型施設ならば可能性は広がる。
- ・他市町村の図書館建替えが相次いでおり、民間テナントが入居する施設もある。民間ノウハウを活かした、官民複合の施設も可能（整備維持負担も少なく済む）。

3 これからのひたちなか市ですと使う図書館はどんな機能があるといいか？

- ・自動貸し出し
- ・歴史資料などのデジタル化（いつでも見れるように）
- ・より長い開館時間
- ・ゆったりと本を読むスペース
- ・コーヒーなどを飲みながら読めるカフェ
- ・席も多く集中できる学習室
- ・子どもが楽しめる児童図書空間
- ・バリアフリー
- ・司書による専門的なサポート
- ・家と職場や学校以外の落ち着いた時に人と話せる空間（サードプレイス）・・・等



市の調査報告書からは、利用者の視点がまだ不足しているという感想です。他地区の新設図書館へも積極的に足を運び、未来に誇れる施設となるように議論と行動をしていきます。



ひたちなか海浜鉄道湊線 延伸について考えるべき気になる論点



1 他に代替手段はないか？

バスと現在の鉄道併用強化で済むのではないか？

【観光客輸送】

沿岸部で整備される県道沿いを走る海が見えるバスの運行も効果があるのではないか。

【住民の足としての公共交通】

ひたちなか地区を中心点とするコミュニティバスを強化する方が重いものを持つ買い物に便利ではないか。



2 技術革新など社会の変化を考慮しているか。

延伸完成までの間に自動運転の進展がある可能性。交通公園のあるひたちなか地区で自動運転を使った交通手段を積極的に活用するべきではないか。

3 税金という市民の負担で、投資した効果は釣り合うものか？

初期投資の整備事業費（市負担分約13億円見込）以外、毎年どの程度の補助金を新たに負担する必要があるのか。

- ・会社として、延伸することで、市の負担を今よりも減らすことが出来る事業計画を出すことが出来るか？
- ・延伸への投資によって、観光客の周遊が生まれ、沿線経済の活性化が本当にされるのか？

H28.6月時点での概算事業費	見直し後の概算事業費	差額
64.8億円	78.4億円	13.6億円

緊急治水対策について

平成28年8月23日の集中豪雨では、時間最大雨量38mm、総雨量141mmの降雨があり、床上浸水24戸、床下浸水163戸、道路冠水32箇所と大きな被害が出ました。私も、消防団員として排水作業に従事しましたが、排水溝が氾濫した状態で、急激な集中豪雨に対して、流末の河川への排水容量が不足していることを痛感しました。

原因として、本市は元々平坦な地形であること、宅地開発など都市化により水田などが消え遊水機能が低下したことやコンクリートなど舗装により雨水幹線への流入が増えたことが挙げられます。こうした被害を受けて、平成28年9月議会にて都市型水害対策について一般質問を行いました。

50mm対応の計画から、80mm対応への転換など、一層の整備要望と、短期で出来る落ち葉や詰まりを防ぐ排水溝管理についても議論しました。また、議会では、防災減災特別委員会でも私を含めた委員間で議論を進めており、一部工事の前倒しなど治水対策への意見反映を行っています。

